歯は ha 歯

ha 歯は ha 歯は

MDHCだより

NO.41

三河歯科衛牛専門学校

H 2 0 . 5 . 2 1

ha 歯は ha

臨床実習開始に際して

校長竹内幹彦

去る5月1日、本校の11回目の戴帽式を無事に終え、今年もいよいよ45名の学生たちを先生方のもとに送り出すことができました。日頃、学生たちに臨床実習の場を提供し、その上、心温まる指導をしていただき、心から感謝申し上げます。

さて私事で大変恐縮ですが、昨年の暮れにひょんなことから下咽頭がんが見つかり、 即愛知県がんセンターに入院することになりました。まさか自分ががんになるとは夢 にも思いませんでしたが、現実を素直に認め、化学療法(抗がん剤)と放射線治療を 受けてきました。3か月の入院を通して今まで経験したことのない生死をさまよう人 たちを間近に見て、人間の強さも弱さも見えてきました。自分のこれからの人生にと ってよい経験をしたと思っています。それと同時に人生を振り返える機会が与えられ、 今までいかに多くの人々のおかげで私自身が生かされてきたか、ということを痛感い たしました。

さて、話を本来の三河歯科衛生専門学校のことに戻しますと、毎年同じことですが、 この前の戴帽式のあいさつの中で学生たちに3つのことを話しました。

あいさつ、返事、会話をしっかりすること。

学ばせていただいているという気持ちを持つこと。

健康に気を付けること。

私は、一人一人教育理念が違うのは当然だと考えています。先生方が一番よいと思う教育を学生たちにしていただけたら大変嬉しく思います。



追伸

今年の入学生は定員60名に対して43名でした。このような状態が続けば、この 西三河の地域から歯科衛生士を供給する唯一の学校が消える可能性があります。将来 の西三河の歯科界を考える先生方一人一人が真剣に学生募集に努力していかなければ ならない時期に来ていると思います。

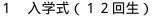
平成20年度 臨床実習概要

実習生は45名、実習期間は5月14日から12月10日までです。24の歯科医院・病院と9の諸施設のご協力のもと、4期に分けて実施します。

* 臨床実習事前指導内容

【臨床補助実習】1年生の学年末に2~3名のグループに分かれ、臨床で多く行われる治療内容(根治・根充、義歯など)についてそれぞれテーマを決め、研究し、その後、講義形式で発表を行いました。【実習直前指導】5月12日・13日に、歯科診療補助(連合印象、バキュームテクニック等)の実技復習をしました。またブラッシング指導時の問題点の抽出、指導方法の検討など、臨床に出る前の最終準備を行いました。

学校行事から



平成20年度入学式は4月10日(木) 10時から本校講堂で挙行されました。 西三河地区歯科医師会会長、愛知県歯科 衛生士会副会長、学園理事長にご出席い ただき、竹内校長が12回生43名の入 学を許可しました。

歯科医師会を代表して、安城市歯科医師会の丹羽会長から、「2年間大変なこともあると思うが、情熱と感性で乗り越え立派な歯科衛生士になって欲しい。」、「医療には"患者さんを病気や痛みから解放し、幸福にする"という不変的価値観がある。」など医療の礎の素晴しさをお話し頂きました。

2 戴帽式(11回生)



臨床実習を前にして、2年生の戴帽式は5月1日(木)入学式同様、西三河地区歯科医師会会長、愛知県歯科衛生士会会長をはじめ多くの保護者のご出席のもと、厳粛で温かい雰囲気の中で行われました。

来賓を代表して、西尾市歯科医師会の 小澤会長から「臨床実習は不安であるが、 医療人はみんな同じ道を歩んできている。 今の初心の心を忘れずに、頑張って欲し い。」と、愛知県歯科衛生士会の水口会長 から「実習先では厳しい指導があるかも しれないが、みなさんを育てる愛情であ る。踏ん張って乗り切って欲しい。」など 激励のお言葉を頂きました。

戴帽生代表者の"決意のことば"では 「常に感謝の気持ちを忘れず、自分の可 能性に線を引かずに"挑む"という精神 で取り組み、たくさんのことを学びた い。」、「患者さんの気持ちを受け止めて寄 り添うことができるよう努力し、半年後、 人の気持ちがわかる人間となり、一回り 成長した姿で戻って来ることを誓う。」と 決意を表明しました。



第17回 歯科衛生士国家試験結果

(H20年3月実施・10回生受験)

全国では6,361名が受験し、合格率は96.0%でした。本校は卒業生49名全員が合格でき、4年連続100%合格となりました。臨床実習でのご指導が大きな力となっています。ありがとうございました。

